

客観的な指標の算出方法について

<学修成果の厳格な評価>

(1) 成績評価の方法及び基準

教員は、シラバスにより授業科目の授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示し、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行う。本学では次の通り、授業科目の評価を行う。

- ①各授業科目の成績は、S、A、B、C、及びDの5種の評語をもってあらわし、S、A、B、Cを合格とし、Dを不合格とする。
- ②S、A、B、C、Dの成績評価は、次の基準により行う。
 - S 基準を大きく超えて優秀である。
 - A 基準を超えて優秀である。
 - B 望ましい基準に達している。
 - C 単位を認める最低限の基準には達している。
 - D 基準を下回る。
- ③演習、実験、実習及び実技の授業科目においては、合否により判定することができる。

(2) GPA

学生の成績を厳格かつ客観的に評価する GPA (Grade Point Average) を導入することで、学生の実力を把握し、全般的な教育方法の改善に役立てる。GPA は「科目の単位数」と「成績評価の Grade Point」の積の総和を「総履修登録単位数」で除して、スコア化したものとする。

$$\text{GradePoint Average (GPA)} = \frac{\text{(在学全期間に評価を受けた授業科目のグレードポイント} \times \text{当該授業科目の単位数) の合計}}{\text{在学全期間に評価を受けた授業科目の単位数の合計}}$$

得られた GPA は成績評価や各種学修指導の他、臨地実習・臨床実習配置、選択科目の履修登録、卒業時の表彰者選定、特待生制度の継続判定、学生自身の目標に対する自己評価指標等の際にも参考値として用いる。